

THAILAND: On the bark of tree, Doi Ghieng Dam, west of Chieng Dam, from Hoet that ('Hill factory' alt. 900 m.) upwards, *T. Tuyama T-57281*, 8. XII. 1957.

First record for Thailand. Hitherto known from Laos and Annam.

### 摘 要

津山尚教授がタイ・ラオスで1957年12月—1958年4月の間に採集したウラボシ科を研究した。この間、同氏は1958年1月22日—3月2日まで大阪市立大学東南アジア学術調査隊の植物班に客員として行動を共にし、同班の植物生態学者小川房人、依田恭二両氏と共に採集した（この標本はOCUBEと表示）。この小著で11属20種を同定した。タイおよびその周辺部は言わばシダフロラ研究の空白地帯で、東南アジアに広い分布域を有する種でも記録がないものが多い。ここでタイ・ラオスへの新分布がそれぞれ6種、3種あった。*Colysis pentaphylla* は今まで雲南省のみで知られていたが、今回タイ・ラオスで発見された。また古くBeddomeによってマレー半島などに分布することが示されている種が、Holttum, Dickasonの最近の研究で無視されている点を指摘した。2, 3の種については形態上の差異点、種のmaintainabilityについてノートした。

### ○高等植物分布資料 (26) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (26)

○ヒメマツバボタン *Portulaca pilosa* L. (一名ケツメグサ) は群馬県館林地方に雑草として見出される草で、1963年8月26日に採集した。草状はマツバボタンによく似ているが、花の直径が8~10 mm、葉が扁平で葉脈が明瞭なこと、種子が光沢ある黒色で鈍頭の突起を密布していることなどで容易に区別できる。なお国立科学博物館には島田弥市氏が熊本市で1954年9月16日に、風見房雄氏が1958年8月22日に東京都大森で採集した標本があった。私の標本は大井次三郎博士に同定していただいたので、ここに感謝する。(田中肇)

○キバナシヨウキラン *Yuania amagiensis* Nakai et F. Maekawa は伊豆や関東の西南部の山地と九州の山地とにだけ知られていたが、その中間には知られていなかった。奈良市の唐沢耕司氏から大台ヶ原山の北方の山続きで、五万分の一地図の八幡平とある所の少し上方600 m内外の林地で採集せられ、その液漬の花と写真をめぐまれた。あってもよいはずではあるが珍しいものなので記録にとどめておきたい。

なお、本誌8月号240頁にハゴロモグサ属の一種 *Alchemilla arvensis* (Scop.) Linn. を報告したが、古く昭和14(1939)年、前川文夫博士によって場所も同じく長崎市にあることを本誌15: 464にすでにノミノハゴロモグサの名で報告されているので訂正しておきたい。(大井次三郎)